

船舶事故調査報告書

平成28年2月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年8月13日 10時55分ごろ
発生場所	山口県上関町上関港 上関導灯（後灯）から真方位135°480m付近 （概位 北緯33°49.6′ 東経132°07.1′）
事故の概要	漁船 戎丸 ^{えびす} は、北西進中、また、ミニボート（船名なし）は、漂流中、両船が衝突した。 戎丸は、右舷船首部に擦過傷を生じ、また、ミニボート（船名なし）は、船外機に擦過傷を生じた。
事故調査の経過	平成27年9月24日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 戎丸、1.5トン YG3-57012（漁船登録番号）、個人所有 第270-46988号（船舶検査済票の番号） B ミニボート（船名なし）、長さ2.45m なし、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 操縦者B、一級小型
負傷者	なし
損傷	A 右舷船首部に擦過傷 B 船外機に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風速 約6m/s、視界 良好 海象：波高 約0.3m
事故の経過	船長Aは、左舷方を向いた姿勢でオーニングの修理をしながら航行していた。 操縦者Bは、右舷方から接近するA船を視認したが、まだ距離があり、A船が漂流中のB船をいずれ避航するものと思い、左舷方を向いた姿勢で釣りの準備をしていたところ、A船が至近に接近していることに気づき、船外機を始動して前進にかけたが間に合わなかった。
分析	A船は、船長Aが、オーニングの修理をしていて、見張りを行っていなかったことから、漂流中のB船に気付かなかったものと考えられる。 B船は、操縦者Bが、右舷方から接近するA船を視認した際、A船が漂流中のB船をいずれ避航するものと思い、左舷方を向いた姿勢で釣りの準備に注意を向け、見張りを適切に行っていなかったことか

	ら、A 船の接近に気付かず、漂泊を続けたものと考えられる。
原因	本事故は、A 船の船長 A が見張りを行っておらず、また、B 船の操縦者 B が見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時適切な見張りを行うこと。